

5-3 歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画（大学院GP）

研究・教育活動の概要と特色

我が国の「成熟社会化」への進行のなかで、人文知の確かな継承と創造のための機構整備は社会的な要請であり、歴史学も改革を必要としている。変転めまぐるしい現代にあって、過去の文化の叡智と、人々の生きざまに学ぶ総合的な歴史学への社会的要請は大きく、生涯学習ニーズの広範な拡大がみられる。博物館、美術館、文書館等において、収蔵品研究、保管活用、企画展示などには、常により高い水準が求められるようになった。本 GP プログラムでは、これらの要請にこたえる高度な資質の学芸員を、国際性豊かなカリキュラムのなかで体系的に育成することをねらいとする。専門分野に深い学識を有し、かつ幅広い対象資料に通じていて、世界各国の学芸員と対等な活動ができる世界水準の優秀な人材の着実な養成は、喫緊の社会的急務である。それは本研究科の人材養成目的にも合致する。

従来、学芸員教育は、細分化した専門分野において行われてきた。優れた学芸員はこれまでも多く育ってきたが、いわば個々の教員や研究室が有する個別の技量に依存してきたという点は否めない。学芸員の国家資格も、5科目12単位を要件とする学部卒業の資格であり、現今の社会的要請とはギャップが大きい。現実には大学院教育が必須であった。本 GP は、いわば個人わざ頼みの現状を改革し、組織的な養成課程として体系化することをめざす。日本のリーダー的学芸員の養成に重点をおくことで、また歴史学全体における大学院教育の改革への牽引車としての役割を果たすことも目標としている。

本歴史科学専攻では、文字史料に加えて考古資料、美術資料など多様な形を取る原資料を「歴史資源」として捉え、個別分野横断的な研究方法、新たな資料学・史料学の構築、その社会的公開をめざして、平成14年度から共同の教育研究活動を重ねてきた。本 GP では、古文書、遺物・遺跡、絵画・彫刻など様々な形態の資料を、統合的に蓄積する「歴史資源アーカイブ」を媒介にして、大学院学生たちを原資料に、現場で、実地に取り組みせる教育プログラムを発展させる。すなわち、各分野で個別に行われてきた学芸員教育を、実物・原典資料を通じてリンクさせ、専門性と広域性を同時に醸成していく。

二つの学芸員養成コースを新たに設置した。考古学、東洋・日本美術史、美学・西洋美術史からの、モノ資料を主な対象とする教育分野を「キュレーター養成コース」、日本史、東洋史、ヨーロッパ史からの、文献史料、木簡、金石文などを対象とする教育分野を「アーキビスト養成コース」として、シラバスを別冊としカリキュラムを体

系化している。それぞれの分野での資料の特性を踏まえた高水準の実物教育を行う。前者は美術館、文化財研究所、博物館、埋蔵文化財センターなどで、後者は博物館、史料館、公文書館、図書館などで国際レベルの活躍ができる人材を養成する。

博士前期課程においては、まず各自の専門分野の原資料に堅実に取り組ませ、歴史資源のもつ本質について良く理解させる。特論、研究演習、研究実習等で、正統的な原典主義を徹底して学ばせる。授業では実物教育・実地教育の機会を豊富に提供し、各自の志望進路を加味した学際的な選択を用意し、修士論文へ展開させる。隣接分野の科目履修により、原資料の実態に存在する歴史資源の多様性の認識を深める。

学芸員としての国際的素養を醸成するため、博士前期・後期課程を通して、教員主導の海外実地教育を実施する。

博士後期課程では、学術雑誌への論文掲載指導を通して、原資料から論文に至るプロセスについて正確に把握させる。学内公募により、大学院学生自身に歴史資源研究のプロジェクトを企画・立案させ、教員の指導の下で実施させることで、健全な競争的環境を作り、研究の計画と実施に関する様々なマネジメント能力を養う。大学院学生の支援成果を「人文社会科学研究（国際高度学芸員研究演習Ⅰ）」において発表させ、隣接分野の実際をも学ぶ機会とする。

TA. RA.にはそれぞれの立場での教育経験を積ませて、歴史資源研究法の「技(わざ)の継承サイクル」をカリキュラム化する。またアーカイブの維持管理を行うシステムを、各分野の歴史資源の特徴に従って確立し、その運営プロセスを通じた教育を行う。東北大学に収蔵されている豊富な資料、また調査資料、画像記録などは、歴史資源アーカイブの一部としてデータベース化し、社会的共有を進める。高度な分析訓練のための設備、デジタルデータの蓄積と活用に必要な機器を充実させる。東北大学総合学術博物館、東北大学史料館、平成8年から連携大学院文化財科学を実施している多賀城跡調査研究所・東北歴史博物館とは、さらに実質的協力を深めて、現場に学び、地域と連携する機会を拡大する。

I 組織

1 教員数（2009年9月末現在）

助手：1

助手：市川健夫

2 大学院GP担当教員（2009年9月末現在）

・キュレーター養成コース

教授 阿子島香（考古学専攻分野・文化財科学専攻分野）

教授 泉武夫（東洋・日本美術史専攻分野）

准教授 芳賀京子（美学・西洋美術史専攻分野）

・アーキビスト養成コース

教授 大藤修（日本史専攻分野）

教授 川合安（東洋史専攻分野）

准教授 有光秀行（ヨーロッパ史専攻分野）

3 登録学生数（2009年9月末現在）

大学院博士 前期	大学院博士 後期
19	23

II プログラム開始から現在までの教育活動

平成 20 年度は東北大学文学研究科が蓄積してきた歴史資料の、歴史資源としての体系化、アーカイブ化に着手した。マイクロフィルムスキャナー、ワークステーション、デジタルマイクロスコープ等の教育研究設備を充実し、歴史科学専攻を構成する 6 研究室の大学院学生の研究を支援するとともに、収蔵する歴史資源の資料デジタル化を推進した。東洋・日本美術史（仏画・仏像）、美学・西洋美術史（絵画・彫刻）、ヨーロッパ史（オーストリア）の画像資料デジタルアーカイブ化を進めた。日本近世近代史の最重要資料である斎藤家文書の整理を進めた。歴史資源研究指導のため、重要資料・図書資料を購入し教育基盤を整備した。ヨーロッパ史（ヴェリ斯拉フ聖書他装飾画入中世写本ファクシミリ版）、東洋史（雍正朝内閣六科史書・吏科）資料は特に充実した。大学院学生の高度学芸員教育を推進するため、二つのコースを設置した。考古学、東洋・日本美術史、美学・西洋美術史を中心にキュレーター養成コース、日本史、東洋史、ヨーロッパ史を中心にアーキビスト養成コースを発足させた。歴史科学専攻の博士前期課程カリキュラムで、両コースの授業科目を設定した。歴史資源教育研究の RA を 8 名、授業カリキュラムでの TA を 11 名雇用して事業を進めると同時に大学院教育の実質化を推進した。アメリカ人講師の国際セミナー（考古学）を実施した。歴史資源（文化財資料）の自治体博物館特別展等への貸し出し・掲載を積極化し、社会的公開・活用を進めた。実務推進のため、大学院 GP 事務室を設置し、専属

の助手を採用した。

大学院学生を単独で海外（フランクフルト、ヴェネツィア、上海、北京）、国内（奈良、京都、東京）に派遣し研修させた。実地研究により美学・西洋美術史、東洋史、東洋・日本美術史分野で、大学院学生の歴史資源認識は非常に深化した。日本史分野では重要古文書の整理に直接関与することで、アーキビスト教育の高度化に大きな成果があった。東北大学史料館の資料充実に貢献し、また RA 経験で教育効果を見た。キュレーター教育では、東北大学総合学術博物館の兼務である教員が引率し、アメリカ（スミソニアン機構自然史博物館）で国際高度学芸員の資質養成の研修を、すべて英語で実施した。展示デザイナー・収蔵施設員・教育解説員と直接インタビュー研修し、現場で世界水準の展示設計を学ばせた。歴史資源ワークショップ（石器資料の顕微鏡観察）を専門研究会と連携して実施、また石器石材現地調査を実施し、教育効果があった。RA と TA は歴史資源アーカイブの基盤整備、研究方法の「技の継承」に成果があった。総合学術博物館の企画展示と連携しての学芸員教育は、歴史資源データベースの充実と社会貢献、授業・研修が総合される成果があった。ロシア科学アカデミーシベリア支部、ワイオミング大学と平成 21 年度の大学院生研修・学术交流計画で合意した。

平成 21 年度は文学研究科歴史科学専攻に設置した二つのコースにおいて、高度学芸員教育を深化させる。キュレーター養成コース、アーキビスト養成コースのそれぞれにおいて、コースカリキュラムを学際的に編成し、大学院生の両コースへの登録を実施し、コース履修させる。コース修了者に、文学研究科として修了証を授与する。歴史科学専攻の 6 研究室において、歴史資源のアーカイブ化を進め、大学院教育に活用する。また、歴史資源を社会に公開し、博物館・美術館等での社会貢献に資する。大学院学生を国内および海外の歴史資源研究、国際研修活動において実地指導し、また大学院学生によるプロジェクトを公募し、支援している。「歴史資源個別分析プロジェクト事業」および「海外歴史資源教育研究事業」を推進させた。その成果を新たに授業科目として開設した「人文社会科学研究（国際高度学芸員研究演習Ⅰ）」で発表させ、各専攻分野を横断する学祭性をも養う。「国際フィールドスクール（山形県真室川町埋蔵文化財調査実習）」を実施し、ロシア（サハリン州立博物館）の学芸員によるロシアでの発掘調査方法の実地指導から、発掘調査の方法・技術の国際性について涵養した。また、東北史学会と学際的に連携して、アメリカ（スミソニアン機構自然史博物館）・ドイツ（ミュンヘン大学附属石膏博物館）・日本（学習院大学）のキュレーター・アーキビストを招聘し、国際シンポジウム「文書館・博物館のこれからとアーキビスト・キュレーター養成」を実施する。国際高度学芸員を養成する課程を

実質化し、RA・TA の活動を通じての大学院学生教育を進める。海外機関と連携しての大学院学生研修を推進する。

Ⅲ 教員の研究活動（プログラム開始から 2009 年度末）

1 教員による論文発表等

1- 1 論文

市川健夫 「大洞 C2 式併行期における土器製作者の文様認識の地域的変異－地域間交流理解に向けての予察－」 『青森県考古学』17, 2009

市川健夫 「スス・コゲの使用痕跡から見た里鎗遺跡における晩期縄文深鍋による調理方法」 『スス・コゲからみた縄文・弥生土器、土師器による調理方法』, 2009（投稿中）

1- 4 口頭発表

市川健夫 「山内清男博士が編んだ縄文文化の時間」 『東北大学総合学術博物館ミュージアムトーク 2009 先史学フロンティア－東北大学からの発進－』, 2009. 2. 28

鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之 「山形県丸森 1 遺跡第二次発掘調査の概要」 『2009 年度東北史学会考古学部会』, 2009.10. 3

※市川は 2009 年 2 月から助手（大学院 GP 専任）に採用されているため、着任以降の業績を記載している。

Ⅶ 教員の教育活動（プログラム開始から 2009 年度末）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

阿子島香 教授

人文社会科学研究（2 学期）「国際高度学芸員研究演習 I」

芳賀京子 准教授

人文社会科学研究（2 学期）「国際高度学芸員研究演習 I」

有光秀行 准教授

人文社会科学研究（2 学期）「国際高度学芸員研究演習 I」